

2025年度第1回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2025年7月11日（金）9時30分～12時05分

会 場：豊岡市役所本庁舎3階 庁議室

出席した委員：山室敦嗣（会長）、西垣由佳子（副会長）、青柳順子、安藤有公子、
飯田勇太郎、川見絵里香、木築基弘、黒田和真、島崎卓也、田原美穂、
増原直樹、水嶋弘三、村田美津子

欠席した委員：野世英子、山下正明

事 務 局：コウノトリ共生部 部長 坂本成彦

コウノトリ共生課 課長 宮垣 均

課長補佐兼係長 竹内有子、主任 戸田早苗

脱炭素推進室室長 原田弥寿久

担 当 課：くらし創造部

生活環境課生活環境係 係長 飯尾嘉浩、主事 松本愛結

コウノトリ共生部

農林水産課 参事 西村文紀、課長補佐 山本大紀

環境経済課経済政策係 係長 小操征司

（注）会議録は、発言内容を一言一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

1 開会（進行：事務局）

- ・会議の公開、傍聴の許可、会議録の公表、配布資料の確認

2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶
- ・坂本部長より挨拶

3 協議（進行：山室会長）

(1) 環境審議会の進め方について

【事務局】環境報告書は、3回の審議会で審議いただき取りまとめる。第2部「目標とする姿」への取り組み状況を目標像①から⑩の順番に審議いただき、各項目について目標の達成状況を3段階で評価いただく。本日は、第2部の取り組み状況について審議いただく。目標像①豊かな森、目標像②里山、目標像③田んぼ、目標像⑧ごみ、目標像⑩環境経済では、農林水産課、生活環境課、環境経済課職員が出席、説明等行う。事務局案として関連する活動をトピックスに挙げている。項目・内容について意見をいただきたい。

第6部「2024年度の環境に関する取組みについて環境審議会の意見」については、第2回審議会で協議いただくため、9月末までに意見記入用紙に記入いただき事務局へ提出いただきたい。

脱炭素施策に関する審議は、第3回審議会で進捗状況の報告及び意見交換を予定している。

今年度の審議会は、第2回を11月、第3回を2月に開催、3月に環境報告書公表予定として。

【委員】第2部と第6部の審議が3回、その3回の中での今日の位置付けと、2回目と3回目の位置付けを、どの時点でどの程度の意見を入れていくかバランスを教えてください。

【事務局】本日の第1回で第2部2024年度の取組みについて意見をいただく。その意見を反映させたものを第2回審議会で協議いただく。第2部についてはその繰り返しになる。第6部は、配布した意見記入用紙で意見をいただき、第2回、第3回審議会で協議いただく。

(2) 2024年度環境報告書（案）について

【会長】目標像①～⑩まで順番に事務局からの説明を受けて審議する。

【事務局】「第2部「目標とする姿」への取組み状況（案）」は、2023年度の内容を更新・加筆し、コロナの影響やコロナ前との比較を記載した内容は削除する。
豊岡市環境基本計画「第3章目標とする姿」として長期的に取り組み、到達すべき目標像10個と、それらを実現するための14の取組みが掲げられている。この10個の目標像の達成状況を審議いただく。

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】林業賃労働者数は、兵庫県林業統計書の数値を用いており、2023、24年と増えている。

木質バイオマス機器の利用は、2014年度以降、公共施設への新たな機器の設置は行っておらず、耐用年数を経過したペレットストーブは計画的に撤去を進めている。2023、2024年度と撤去があり、その撤去数を反映させたグラフを記載した。

木質バイオマス利用機器設置補助は、2011年度から補助事業を開始、これまでに226件の申請があり機器の設置が進んでいる。

トピックスは、自伐型林業の推進を挙げているが、項目についても意見をいただきたい。

評価(案)は、「林業就業人口が増えていること」をプラス評価し、昨年度と同じ評価「この調子で頑張ろう」とした。木質バイオマス機器の設置数が減少していることをマイナス評価とするか意見をいただきたい。

【会 長】意見や質問があれば発言いただきたい。

【委 員】昨年、この会議で、ひょうご農林機構の分収造林事業が破綻していることを伝えた。豊岡市でも、現在、関係地権者に説明会が行われている。今後の豊岡市の森林行政にも大きな影響を与えると思うので、環境報告書にひょうご農林機構の分収造林事業の現状は書く必要があるのではないかと。

木質バイオマス利用機器設置補助は、2011年から計226件の申請があり、補助をしたという結果はこの通りだが、機器には耐用年数があり、使っていない、廃棄した可能性もあるので、226件すべてが稼働しているとは言えない。

【事務局】ペレットストーブや薪ストーブの利用機器設置補助については、機器が使われていないものがあるかもしれないが、民間の方への補助のため廃棄されたものの数値は把握できない。

【担当課】ひょうご農林機構の分収造林事業が破綻していることはすでに報道されており、実態としては間違いなことである。今後については、今議論されているということも含めて状況として記載しても問題はないと思うが、審議会の判断にお任せしたい。

【会 長】分収造林について、どういう議論が具体的になされているか少し説明いただきたい。

【担当課】兵庫県でどのように進めるのかという「あり方」について議論した結果を、分収造林の実質の契約者が県から説明を聞く状況になっていて、実際の所有者への説明会は始まったところ。ただ、考え方の説明であって、個々の話は来年度以降、順次進めていくというスケジュール。森林の形態によって今後どのような進めていくかが、おおよそ方針として示されている。収益が得られる森林とそうでない森林に大別され、収入が上げられるものは、林業事業体に管理いただき、収入が得られない森林は、公的機関に管理を委ね、防災等の機能を保持しながら管理を進めるといった、林業経営する山と維持していく山に分けて、今後のやり方を考えていかないといけないということが説明会で話されている。

【委 員】収入が得られないケースが問題になってくると思うが、豊岡市がその負担を請負う形になるという理解でいいか。

【担当課】現状では豊岡市が受けるという最終的な答えにはなっていない。

【委 員】県のあり方に関する報告書は県議会も承認をしている。豊岡市も環境審議会の中で何もそれに触れられていないというのはおかしい。現状を知ってもらうためにも記載をしておくべきではないか。評価は「この調子で頑張ろう」にはならない、見直していただく必要がある。

【会 長】記載するとすれば、トピックスで記載するのがいいのか、本文中で記載するのがいいのか。

【委 員】大きな問題の事実としてあるが、破綻していることは、こちらの話ではないので、トピックスより分収造林の説明のところで現状を記載するのがいいのではないかと。すべての分収造林が駄目だと誤解を生まないようにだけ気を付けていただきたい。

【委員】公共施設では木質バイオマス機器の撤去が進んでいるが、今後、撤去した機器を入れ替えるのか、それとも撤去したままにするのか。

【担当課】ペレットストーブは、今後、順次撤去し、更新はしない。今後、木質燃料を使う機器について、どう考えていくのかという点はまた議論になるかと思う。

【委員】「撤去を進めます」だけの記載になっているが、次のことを考えた記載があったほうがいい。

【委員】シカや獣害の関係は、目標像②に特化しているが、目標像①「下草が生えた豊かな森林」に直結しているので、シカのことも少し入れたほうがいい。

【委員】城崎・戸島地域の集落の上、それから畑上から三原の間くらいで、伐採が始まっている。道沿いなので見た目の変化がすごく見える。市民がどういう事業でやっているのか知る機会・方法はあるのか。気になったときに聞ける場所があると、もっと市民も含めて関心を持てる、次に繋がっていくのではないか。

【担当課】県民緑税の里山防災林整備事業や、市の森林環境保全対策事業という補助事業で実施しており、これを大々的に市はPRしていない。

【委員】現場に設置してある工事用看板に事業名が書かれている。

【委員】市の事業の場合は、再造林はどうなるか。

【担当課】いわゆる緩衝林について再造林は行わない。

【委員】天然更新でということか。天然更新が本当にできるかどうか。

【担当課】木が思うように育つかというと、これまでを見るとなかなか育たない状況はあるが、新たに植え替えるというところまでは今は制度的には行っていない。人工林でも再植林はしないという状況である。

【委員】防災のために、きちんと次の木が育てば、土は止まるが、止まらないというのは、防災機能的には。

【担当課】土が流れないようにするためにも、一部杭を打つところもあるが、根までは切らずに、ある程度の高さまで切り残して、そこに切った木を横積みする格好で土留めと防災機能を持たせるという格好にしている。また大きくなる、新しく生えてくる可能性もあるが、あくまでも、集落と山を離す、直接、干渉しないようにする対策事業である

【委員】本文に「間伐材をそのまま地滑り防止に活用する土留工を行って」とある。土砂崩れの心配があるが、獣害対策や、危険なので伐採して欲しいという要望をもとにやっている。市や県の指示を受けて施工は事業者が受け持つ。その時点でベストな状態を選択はしている。

地滑りなどの災害と、獣害対策として、シカやイノシシと民家との間にバッファゾーンを作るという事業が進んでいる。

【会長】先ほどの情報に関する議論だが、例えば、森林に関わる課で、今年度の里山防

災林整備事業の概要をホームページ上で公開をしているのか。

【担当課】 公開はしてない。

【会 長】 年度ごとの更新でも結構なので、ホームページ上で公開されると市民はより情報に接しやすくなる。

【担当課】 県の事業のため、県で公開をされてるものと思うが、検討させていただきたい。

【会 長】 森林の話は今後もひょうご農林機構の話も含め出てくるので、いろんな形で市から情報発信していく必要がある。特に、面積も広く、皆さんの目につきやすい。関心を持ってもらい、或いは不信を抱かれないということも含めて積極的な発信をした方がいい。今後の検討事項として考えていただきたい。

【委 員】 2024年度の林業賃労働者数は増えているのはいい傾向だが、森林組合への就職やご自身で事業を立ち上げたり、どういう形で増えたのか。

【担当課】 豊岡コウノトリ森林組合が人数的には一番割合が大きい。株式会社豊岡森林やNEXTGREEN但馬がこれに次ぐ。個人事業主が増えてきており、例えば、神鍋白炭工房、神鍋林業、他にも市の単独補助事業で新しい業者を目にするようになってきた。個人や、4～5人規模で起業されている事業者がある。

【会 長】 そのあたりの情報も含めて本文に記載があるといい。事務局で情報収集をして追加で記載をしていただきたい。

評価(案)は、○が3つ▲は1つ挙がっているが、何か意見や質問があれば。特にないようなら次回の審議会で意見や質問をお願いしたい。

目標像② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【事務局】 有害鳥獣について、林業被害面積・被害額とも2023年度より増えており、シカ有害被害撲滅大作戦の捕獲状況は、年間捕獲目標6,500頭を下回った。シカの生息数が減少傾向にあること、捕獲機会が減少したことが要因と推測されるが、推測に基づく内容を報告書に記載するかどうか意見をいただきたい。

緩衝地帯（バッファゾーン）は、2024年度新たに整備が行われた。

竹野南森林公園体験教室の実施回数を本文に追記した。

トピックスは、獣害対策緩衝地帯森林整備事業を挙げているが、皆さまがご存じの里山に関する取組みがあれば提案をいただきたい。

評価(案)は、「林業被害が増加したこと」をマイナス評価、「新たに緩衝地帯（バッファゾーン）整備が行われたこと」をプラス評価、評価全体ではマイナス評価の方が多いため、昨年度の「この調子でがんばろう」から「もっとがんばろう」に変更している。

【委 員】 トピックスのバッファゾーンの整備は非常に重要である。シカの話も市民の関心も高い。文章だけだと伝わりにくい。こういう森林とイメージが伝わるような地図や図解を入れていただけるとより理解が深まる。可能な範囲で検討いただきたい。

【委員】ラムあるき登山「新緑登山、雲海登山ともに実施されませんでした」は、どういう背景で実施されていないという記載はしないのか。

【事務局】実施者の都合でと聞いているが、それを記載するかどうか。

【委員】これまでから森林ツーリズムのひとつとして、ラムあるき登山参加者数が記載されているが、森林ツーリズムなら他にもやっていると思う。実施者都合ということであれば、今後、もうやらないという可能性もある。森林ツーリズムがどうなっているという現状を書いた方がいい。他の登山など載せるのが現状把握をするという意味ではいいのではないか。

【事務局】委員がおっしゃったように、これ以外にやっている事業の情報があれば提供いただきたい。

【委員】来日山の登山中止は、高齢化によりトイレの清掃やサポートをする人がいないという事情がある。来日山以外に新しいことも何かあると思うので、ここにこだわる必要があるのかは少し疑問である。もっと新しい動きを入れて、過去にはこういうことも定番にありましたぐらいにしてもいい。

【会長】コミュニティ単位では活動しているが、主催者が高齢化で担えなくなっているところのサポートなど、コミュニティ同士の連携やコミュニティ同士が支え合うような仕組みについても今後視野に入れていただけるといい。

【委員】コミュニティ単位では登山みたいなことをやっている。実施ができたかは不明だが、有子山登山を弘道と寺坂でやろうという話はあった気がする。そういう連携を図るのはあり得かなと話を聞いて思った。

【会長】森林ツーリズムは、次年度以降どういう扱いにするか、事務局でも議論されている。今年度は少し補足をして、次年度以降、掲載の仕方について考えたい。

【委員】森林公園の利用で「2023年、2024年度は3回事業を実施」とあるが、目標像の具体イメージに「食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています」「安心して散策を楽しめる里山が増えています」とあり、イメージできるような内容がないので、どのような体験教室をされていて、市民も参加していることを書いてもいい。

【事務局】事業内容を確認して追記する。

【委員】「鳥獣保護管理法に基づき捕獲物等は原則として持ち帰ること、やむを得ない場合に限り適切な方法で埋設する」とあるが、現状、埋設がなかなかできていないと見聞きされていると思う。この点について豊岡市はどうお考えかをお聞きたい。新温泉町では、処理施設を町が建てたが、近隣でないのは豊岡市だけ。

【担当課】現在、有害捕獲は埋設処理で進めている。ただ、埋めることはなかなか大変なことも理解している。埋めることができなければ、市内に3カ所、日高・出石・竹野に引き取り業者ができています。できるだけ引き取って有効活用できないかと、業者の方が働きかけていただいて受け取りが可能になっている。すべて引

き取れるかというとなかなか厳しい目標であり、今後、行政が主体ではないが、引き取り業者が増えていけばということで情報収集をしながら進める。

【委員】 実際、その3つの業者がどれぐらい年間で引き取られているか、そこまで把握していただいて現実的な仕組みづくりをしていただきたい。

【委員】 獣被害の面積と額について、農業はさほど変わっていないが、林業が倍以上増えている。その理由は。

【担当課】 林業被害は、新しく植えたところが被害に遭っている。市内でも特に国が進めている森林整備センターの作業林で、苗を植えたがシカに食べられてしまうといったことがある。網を張って囲うなど対策をしているが、穴があって、そこからシカ等が入って食害にあうことがあった。その年によって差がある。

【委員】 シカ被害は国定公園でも壊滅的な状況だと思うが、そういった状況を、市民の方はご存じないと思う。その状況を書かなくていいのか。

【委員】 国定公園の中でも被害がということだが、確かに農業、林業だけでなく、自然の山林にも被害が出てるという記載があった方がいい。

【会長】 そこも含めて、追加の記載については考えたい。

【委員】 シカ有害被害撲滅大作戦の捕獲数は、2023年度と比較してハンターの方の狩猟数がかかなり減っている。以前にハンターの高齢化が進んでいて、なかなか駆除ができてないという話があったかと思うが。捕獲頭数が減った原因として、ハンターの方の高齢化で出動自体が減っているということはないか。

【担当課】 捕獲頭数は減っているが、有害鳥獣捕獲班の班員はそれほど減っておらず、年間100名位の捕獲班員で対策をしている。おっしゃったように高齢化が進んでいて、能力的な部分で年相応というところはあったと思うが、通常捕獲、それから専任班捕獲を受けて、例年通り活動は実施いただいている。

シカの捕獲頭数が減ったことは、捕獲を進めていることによって、頭数も減り、捕獲をすることによって圧がかかり、この地域から追い払いができており、結果的に捕獲頭数が減ってきている。

高齢化については、今後の捕獲体制に影響が出てくるが、20代30代の新しい班員が何名か入ってきて、その方への指導も含め、育成、更新をしていくことも努力いただいている。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】 学校給食でのコウノトリ育むお米の使用量、内無農薬米の使用量について、新たな表を記載した。2024年度は全体量の約36%が無農薬米となっている。

ビオトープ水田面積が減少しており、管理者の高齢化により管理が難しくなっている。

トピックスは、10年後を見据えた農地利用の計画「地域計画の策定」を挙げている。

評価(案)は、「環境創造型農業におけるコウノトリ育む農法の作付面積、割合は

増加していること」をプラス評価、「ビオトープ水田面積が減少していること」をマイナス評価とし、昨年度と同じ評価「この調子でがんばろう」としている。

【委員】国のメタンガス排出量の4割ぐらいを水田が占めているということで、コウノトリ育む農法の要件の中に、中干し延期があったと思う。中干し延期をすることでメタンの発生を抑制する効果があるということは、すでに多くの関係機関で検証もされている。豊岡市もコウノトリ育む農法を推進している立場から、中干し延期がメタンガスの発生抑制に効果があることについて、農林水産課の見解も含めて記載があってもいい。

【担当課】農林水産省では環境保全効果のある農法に補助金を設定されているが、片方では「中干しの実施時期を遅らせることによる生物多様性保全」が推奨され、もう一方では「中干しの期間を長くすることによる温室効果ガスの抑制」が推奨されている。「コウノトリ育む農法」では、水を抜けば生きものが住めなくなるという理論で中干し時期を遅らせている。

【委員】中干しそのものは、当然稲に対しても、株が酸素を取り込んで、根からの活性化にも繋がるという点で農家はやるが、今、J-クレジットにもこの施策そのものが認められている状況、効果そのものを知っていない市民もあるので、数値的なものでなくても書いてもいい。

【担当課】豊岡市では環境創造型という特徴的な農業になっている。具体的などころの紹介という形で市民に伝える必要もあると思う。

【事務局】基本的に間断冠水の部分を含めて、温室効果ガスがどれだけ発生しているかをきちんと把握できているわけではなく、1つの広義的な要素の中で、中干しを延長することによって抑えられる部分のある効果ということでJ-クレジットには載っている。豊岡市がやってきたことは、中干しする時期を後ろ倒しにすることで、トンボのヤゴの羽化を助けたり、カエルの変態を助けたりと、中干しの期間自体を設定はしていない。長さではなく、期日を遅らせるという形でやってる。コウノトリ育む農法をやっていたらその部分ができないということではなく、農法の中にはきちんと中干しという行為は入れている。天候によっても中干しの期間は違って、一定ではないので、方法として規定しているということでもないので、書き方がすごく難しい。ただ、農林水産省の見える化事業では、育む農法のお米は、生物多様性でも三ツ星をもらって、脱炭素の方でも三ツ星をもらっている。そういったことを記載することは可能。

【委員】おっしゃった通りだと思う。ただ、どこかで読んだから言ってるだけの話だが、水田が悪者になって、メタンガス発生の根源の4割は水田です、ということをはっきり国が認めて書いている以上は、ちょっと抵抗したいという思い。

【会長】そのあたりも含めて記載するかしないか、する場合はどういう形で記載するのか、次回改めて提示したい。

【委員】農業スクール研修生は、卒業生累計34人が全員市内で新規就農され、どこか他

市に行かれたということないという認識でいいか。

【担当課】雇用、独立の違いはあるが、全員市内で就農されている。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】子どもたちの川の体験活動実施校のグラフを、実施率パーセンテージ表記から、実施校数・市内学校数に変更した。22小学校中20校が実施した。

川清掃・浜清掃の実施団体は確認できていない。

トピックスは、2021年度から行っている「円山川でのアユ産卵場造成事業」を挙げている。

評価(案)は、「子どもたちの川での体験活動が定着していること」をプラス評価、「清掃活動に取り組む方々が増えている」という評価については、現時点で実施団体数が確認できていないが、前年度と同じ「この調子でがんばろう」としている。

【委員】評価の「▲不法投棄対策を行うことで家電等の大型ごみの不法投棄は減少しているが、空き缶等の不法投棄は未だ減っていない」というのデータはないのか。

【事務局】数値的に残っていない。

【委員】不法投棄の摘発件数もないのか。

【事務局】後ほど、担当課が出席するので、そこで確認したい。今、事務局では把握ができていない。

【委員】竹野海岸で言うと「竹野海岸を美しくする会」があり、環境省も含め行政や地元の区などが入って、清掃活動に関する会議をやっている。ぜひ入れていただきたい。

【事務局】市ですべてが把握できておらず、活動を行っているのに記載されていないものもある。どう把握して記載するか悩ましい。

【会長】記載内容も含めて事務局と検討して次回改めて提案したい。

【委員】うちの事業者もいろんな活動をされて、陸では行けない、船でしか行けないところ中心に活動している。市民ではないから記載がないのかと常に思っていた。記載の基準がよくわからない。

【会長】データのものは何かあるか。

【委員】毎年やっていて、メンバーの計上はしている。市にも報告はしているはず。

【会長】次回追加して報告したい。

目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】コウノトリの野外個体数は順調に増加し、野外コウノトリが500羽に到達したことが7月6日コウノトリの郷公園から発表された。新たな営巣地とし5市町が

加わった。2024年度は、電柱への営巣行為により巣材の撤去が増えた。
小さな自然再生活動支援助成申請件数は減少した。新たに湿地管理ボランティアの内訳を記載した。
トピックスは、外来種対策を推進するため「外来種対策行動計画を策定したこと」を挙げている。
評価(案)は、「小さな自然再生活動支援助成申請が減少していること」をマイナス評価、「外来種駆除を進めていくため行動計画を策定したこと」をプラス評価し、昨年度と同じ評価「この調子でがんばろう」としている。

【委員】言い回しだが、「全国各地を訪れています」ではなく、コウノトリはあくまでも野生動物のため、「全国各地に飛来しています」に書き換えていただきたい。
「電柱への営巣行為による素材の撤去が増えています」は、事実として巣材の撤去が増えているが、何も対応をしていないのかと。これからどんどん電柱に営巣することも考えられるが、公的機関の補助金があり、一般の方の寄付のみで巣塔が建っているところもあるので、そのことも記載していただければ。

【事務局】人工巣塔がその対策になるかどうかという問題もある。

【委員】実際に人工巣塔を建てても営巣してないところもあるので、対策にはならないかもしれないが、建てているところもあるということを知らない方もあるので記載いただきたい。

【会長】事務局と相談して、次回改めて提案する。

【委員】小さな自然再生活動支援事業の助成件数が少し減っているが、どういう背景で減ったのか。

【事務局】補助金額や要件が変わったということはないため、要件が理由で減少したということはないと思う。

【委員】高齢化という感じでもないか。

【事務局】地域コミュニティや学校、保全活動団体などが申請されている。毎年申請する団体もあるが、その年々に活動する団体や内容で申請が上がってきている。

【委員】「2019年度から補助上限額が10万円から5万円に変更になりました」とあるが、2020年度に助成件数が減ってるのは、補助金額が変わったことに関係があるか。

【事務局】この時期は、コロナの影響である。

【委員】昨年度、コウノトリが増えてきている中で、保護から次のステップに上がっていかないといけないという話があったと思う。「撤去が増えています」だけで終わっているのも、新たなステップ、コウノトリとの共生みたいな「新たな課題についても考えていく必要がある」というような記載があるといいが、そのあたりいかがか。

【事務局】もともと保護だけではなくて、野生復帰の中には地域づくりや農業振興などいろんな意味合いがある、コベネフィットな取組みとしてやっているのも、新た

なステージということでの記載はなかなか難しい。

【委員】 コウノトリを見たら「せっかく来てくれたから」みたいな意識がすごく強く、まだ何となく特別感が抜けてない。個体が増えてくることによって、いろいろあるというところは、もう少し知っていただいたほうがいいという意味で載せた方がいい。

【事務局】 繁殖というかコウノトリの羽数が増えたことによる新たな問題・社会的課題という書きぶりということか。コウノトリをシンボルとしたコウノトリも住める豊かな環境づくりで、コウノトリだけの問題を取り扱ってる訳ではないというところもあるので、新たな社会課題として解決していくべきところはもちろん、私たちの課自身も意識して対策もやっているが、環境報告書の中にそこを書くかどうかというところは議論いただきたい。コウノトリの生息できる環境整備の中に、そういった新たな課題も出てきていますと書くのは可能かと。

【委員】 見え消しされている内容が新たな課題として既に出てきたことかと思うが。

【事務局】 2024年度は見え消し部分（防獣ネットや電気柵に絡まり、救護・死亡する）の事案があまりなく、電柱への営巣行為による巣材の撤去が事案として多かった。

【会長】 今、提案のあったことも含めて事務局と再度調整して、また次回検討いただきたい。

目標像⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【事務局】 地域コミュニティの行事事例として、担当課に情報提供いただき清滝コミュニティと小坂コミュニティの取組みを記載している。

トピックスは、豊岡演劇祭での但東地域の方々による「但東さいさい」を挙げている。

評価(案)は、大きな変わりはなく、昨年度と同じ評価「この調子でがんばろう」としている。

【委員】 豊岡市地域コミュニティホームページが 2023 年度以降更新されてない。担当課に確認した上で、掲載いただきたい。

目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】 生きものとふれあう体験学習実施校のグラフを、実施率パーセンテージ表記から、実施校数・市内学校数に変更した。実施校は2023年度より3校増えた。コウノトリKIDSクラブ会員数は、募集人数を上回る応募があり、子どもたちが身近な自然に関心を持っていることがうかがえる。

トピックスは、2023年度のオンライン交流に続く「佐渡を訪問しての市立田鶴野小学校と新潟県佐渡市行谷小学校の交流体験学習」を挙げている。

評価(案)は、「コウノトリKIDSクラブに募集人数以上の応募があること」「他地域との交流で子どもたちが身近な自然のことを学び、伝える機会が増えている

こと」をプラス評価し、昨年度の「この調子でがんばろう」から「よくがんばりました」に評価を上げている。

目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【事務局】市民一人あたりのごみ計画収集量が年々減少している。資源ごみの集団回収での回収量、補助金申請件数ともに減少している。

クリーン作戦参加人数は2023年度から約4,500人減少している。

生ごみ処理機購入事業補助金交付実績は、2023年度同様高い水準となっており、市民の関心の高さがうかがえる。

トピックスは、使用済みペットボトルを原料として再び同じ種類のペットボトルを製造するリサイクル方法「ペットボトル水平リサイクル」の実施を挙げている。

評価(案)は、「市民一人あたりのごみ計画収集量の減少が続いていること」をプラス評価、「資源ごみの回収量、集団回収補助金申請が減少していること」をマイナス評価し、昨年度の「よくがんばりました」から「この調子でがんばろう」に評価を変更した。

【会 長】不法投棄の摘発数について、担当課にお聞きしたい。

【担当課】テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコンなどを回収した数は把握していない。空き缶等は、6月実施のクリーン作戦や地区清掃活動等で回収いただいているが、数量まではわからない。

【委 員】不法投棄の摘発をした事例はあるか。

【担当課】摘発した事例は特にはない。監視カメラを設置して、市民から通報等があれば警察に連絡し現場確認等はしているが、摘発まではない。

【委 員】現在、電気式生ごみ処理機のための補助で、今後、コンポストへの補助をすることは考えていないか。

【担当課】コンポストは、以前、豊岡市でも購入補助をしていたが、現在は電気式生ごみ処理機の補助での対応としている。今の段階では考えていない。

【委 員】トピックスの最後に「リサイクル先を「見える化」することで意識の向上につながる」とあるが、具体的にはどう「見える化」されるのか。

【事務局】北但行政事務組合が発表している内容を記載している。内容を確認させていただく。

【会 長】次回までにクリーンパークに確認いただき、次回内容等を検討する。

【委 員】評価で「資源ごみ回収の回収量・申請件数ともに減少している」とあるが、これ

は民間企業の回収はおそらく含まれていないと思う。これだけ見ても市内でどれだけのごみが回収されているか全部はわからない。資源ごみ集団回収が減っていることが評価としてマイナスになることか、いかがか。

【事務局】件数が減ったことだけでマイナス評価とするかどうか、意見をいただきたい。

【委員】民間で回収されているのであれば、それはリサイクルされるから問題ない。マイナスとするほどのことなのかは疑問である。

【事務局】資源ごみの回収件数や量が減った原因がわからないので、評価の判断が下しにくい。「クリーン但馬10万人大作戦」は参加人数自体が減っているので、マイナス評価になるのかもしれない。

【会長】担当課の方で、ごみ回収量や申請件数の減少についての見解はいかがか。

【担当課】申請があって初めて回収量を知るので、減少の原因は分からない。

【会長】評価について事務局からあったが、クリーン但馬10万人大作戦の参加者が前年度に比べ約4,500人減少しているので、評価の欄に入れた方がいい。項目も含めて次回改めて提示したい。

【委員】クリーン作戦の水路掃除で土のうが出るが、あれは、どこへ集められてどう処理されるのか。

【担当課】土のうの収集運搬は、委託業者に任せているので今お答えすることができない。

【会長】次回の審議会でお答えいただきたい。

【委員】以前、プラスチックごみ削減対策委員会があり、給水ポイントの設置やマイボトルを推進してペットボトル減らすという取組みがあったと思う。そのことはごみの減量化に繋がると思うが記載はないのか。給水ポイントの稼働率などの状況も知りたいが、いかが。

【委員】2030年までに使い捨てプラスチックごみをゼロにすると決めて、スローガン「みんなと一緒にワンモアアクション」と取組むことになっていたが、全く触れられてない。

【委員】自動販売機のペットボトル販売を無しにして缶になっているところもよく見かけ、それも市の施策としてペットボトルを減らしていく目的で販売自体を無くしていくということだったと思うが。

【委員】実際に、アユの産卵場造成事業のときでもペットボトルのお茶が配られた。私は、委員会の委員だったが、あの話は一体どこに行ったのだろうというのが正直な気持ち。今一度見直していただいて、豊岡市としてどのように進んでいくのか、そしてこれに記載するのかどうかを1度考えていただきたい。

【事務局】市の会議では、ペットボトルは基本出さない。もし出す場合でも大きなペットボトルを出してそれを分けるようにと、一人1本ずつ出すことはしないように何年か前に通達が出されている。

【委員】そういった取組みは、すごく前向きでいいことだと思うので、取組み例を記載されてはどうか。

【事務局】ごみの量と回収の取組みのみの記載で、「ごみの減量」について記載がないので、記載内容について調整させていただきたい。

【委員】事務局のおっしゃる通り、市の会議にはペットボトルを出さない。今後、豊岡市のいろいろな団体の会議でできるだけ真似して欲しい。軽装(エコスタイル)で来てください、できるだけ公共交通機関を利用しましょう、3つの会議スタイルをきちんとすべての案内に記載をする、そういうまちになったらいい。

【会長】提案いただいた項目の追加も含めて、次回改めて提案する。

目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】市街地循環バス（コバス）利用者数は、2020年度以降増えている。大規模太陽光発電所の年間発電量、売電収入は、出力制御があったため減少している。

トピックスは、「日高神鍋観光協会とハチドリ電力との地域共同募金の発足」を挙げている。

評価(案)は、「住宅用、事業者用太陽光発電設備の設置が広がっていること」「日高・神鍋エリアなど市民の中に脱炭素の意識が高まっていること」をプラス評価し、昨年度と同じ「この調子でがんばろう」としている。

【委員】トピックスに観光協会を取り上げていただきありがたい。12月からスタートし、12月～3月検針分の1%を6月に地域共同基金に頂戴して、3カ月で3万8000円、44人が支援いただいている。使用用途に関しては、協会だけではなく、地域の区長会長も一緒になって検討していくことになっているので、そのニュアンスを入れていただいた方が、目標像の「市民みんなが」という感じが出る。観光協会だけで使っていないこと、きちんと地域住民の方と協議する、ということを残していただきたい。

【委員】地域共同基金にも参加させていただいている。市民だけでなく事業者や団体など大きな組織も参加しているので、評価の「日高・神鍋エリアなど市民の中に脱炭素の意識が高まっている」に、「事業者など」も加えていただきたい。

【会長】修正させていただく。

【委員】昨年までの実績には何もないと思うが、今年だと脱炭素アカデミーも企画される。その中で、省エネ行動という言葉が書いてあるが、どういうことをすればいいかとか、もっと簡単な、キーワードとしては「シェア」。交通機関ならイナカーがそう。今ならクールシェアで冷房の効いた場所をみんなで利用しようとか、来年はそういうことが書けるようにしたい。

目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】環境経済認定事業者数は、2024年度も2事業者が認定され、年々増えている。コウノトリ育むお米出荷量は、JAたじまから回答をいただき、1,246 t、うち約

20.61 t が海外に輸出されている。

コウノトリ文化館の環境学習参加人数は、2020年度から年々増加しており、一般の方が増えている。環境協力金の一人当たりの額も年々増えている。コウノトリ目撃情報提供数は、2023年度より10,254件増え、コウノトリへの関心が高まっていることがうかがえる。

トピックスは、2024年10月に神鍋高原で行われた「サステナブルツーリズムのモニターツアー」を挙げている。

評価(案)は、「コウノトリの目撃情報提供数が増えておりコウノトリへの関心が高まっている」ことをプラス評価し、昨年度と同じ「この調子でがんばろう」としている。

【委員】コウノトリ目撃情報提供の記載だが、営巣地だけではなく飛来地自体も増えているので、「新たな飛来地・営巣地」が加わったとしてももらえたら。

【事務局】飛来地とは。前のページでは、都道府県全部で飛来が確認されたと。

【委員】市町村単位か。県だと大きい。もっと細かいところで増えている。飛来地の定義によって変わってくる。ただ、移動する能力の高い野生動物のため、今見られない地域で今後どんどん目撃されることは確実である。

【事務局】記載は考えたい。

【委員】環境経済認定事業者の売上実績を出すルールがあったと思うが、売上実績を入れられないのは何か理由があったか。

【担当課】売上状況に関しては、個々に差異がある。すべて右肩上がりとはならない。

【委員】評価で「環境経済認定事業者が年々増加している」と書いているが、2024年は5件から2件に少なくなっており、違和感がある。

【事務局】累計の件数が増えており、近年は取り下げ件数もない。

【会長】認定されるとずっと継続できるわけですか。何か更新手続きがいるのか。

【担当課】一度認証されれば、事業が続く限り認証される。

【会長】そのあたりも含めて少し書きぶりは検討する。

【会長】第2部目標像①から⑩について確認いただいてご意見をいただいた。修正点多々あるので、次回、改めて事務局から提案いただき、第2回、第3回の審議会で協議いただきまとめたい。

4 報 告

(1) 2022年度温室効果ガス排出量について

【事務局】2022年度豊岡市域の温室効果ガス排出量について公表したので報告する。市域の総排出量は、2022年度は484千トンで、2021年度に比べ15%の増となった。基準年度としている2013年度から、144千トン減少した。資料には記載していないが、算定の基礎となるエネルギー消費量は、全体で1.6%の増にとどまって

いる。これは、算定に用いる電力のCO₂排出係数が、2021年度が0.331に比べて、2022年度が0.434であり、電力を作るためのCO₂排出割合が約40%増えたことが影響していると思われる。

次ページに、各部門別の増減状況と要因を記載している。前年度比の削減割合は、産業部門で10.2%の増、民生家庭部門で31.9%の増、民生業務部門で22.3%の増、運輸部門で4.8%の増、廃棄物部門で23.1%増と一番多く出したのは、民生業務部門となった。

民生業務部門の増加要因としては、世帯数の増と、猛暑による家庭でのエネルギー消費量が増加したことが要因と思われる。

【会 長】脱炭素に関する政策についての審議・協議は、第3回審議会で時間を取って行いたい。

5 その他

(1) 視察研修について

【事務局】10月下旬に視察を予定している。事前に会長、副会長に視察内容について相談させていただき、候補は、森林・里山について知る機会をとということで、神鍋方面への視察を提案いただいた。皆さまからも意見をいただき視察先、内容を調整させていただきたい。

【会 長】事務局から説明があったように、今年度の視察は10月下旬を予定している。候補として、神鍋方面への視察も考えているので、皆さんから提案あれば事務局へ連絡していただきたい。

6 閉 会

・西垣副会長あいさつ